

# 特集

## 障がい者スポーツに取り組むクラブ



### NPO法人斐川体育協会 ひかわスポーツ夢クラブ



<島根県出雲市>

総合型クラブは、障がい者スポーツの推進などの様々な地域課題の解決に向け、地域スポーツ団体等と連携を図ることが重要となってきます。また、地域コミュニティの核として期待されている総合型クラブは、地域の障がい者がスポーツに親しむことができる環境を今後さらに提供することも望まれております。

そこで今回は、障がいのある方も活動しているクラブについてご紹介いたします。

## 1 クラブ概要

### 団体間の連携強化のため斐川体協と夢クラブが合体

平成20年に斐川町教育委員会によって設立準備委員会を立ち上げ、平成22年3月21日に総合型地域スポーツクラブ「ひかわスポーツ夢クラブ」を設立しました。その後、地域スポーツ推進団体を一本化し団体間の連携を強化することを目的として、平成27年4月にはNPO法人斐川体育協会がクラブ事業を引き継ぎ、「NPO法人斐川体育協会ひかわスポーツ夢クラブ」となりました。

### フィットネス事業を中心に12教室、5サークル活動、年間5イベントを実施

指定管理団体としては、1つの文化施設、3つの体育館の管理を行っています。町内には中学校2校、小学校4校、幼稚園および保育園が13園あります。地区体育協会6協会、競技団体18団体、スポーツ少年団25団が活動するスポーツが盛んな町です。また、総合型クラブとしては、出雲市斐川町内を主な活動範囲とし、フィットネス事業を中心に12教室、5サークル活動、そして年間5つのイベントを実施しています。クラブマネージャー1名を中心に運営していますが、経験豊富な法人スタッフのサポートを受けながら会計処理や教室サポートを行っています。

## 2 障がいの軽重に関係なく子どもが楽しめる 「スポらく教室」

### 【取り組むきっかけ】

#### 障がい児家族のサークルからの依頼が端緒

障がい者スポーツに取り組みたいと感じたのは、学校、会社での運動指導現場において、障がい者の方々の健康課題を実感していた時です。日常生活の不活動性が高い障がい者は、健常者以上に肥満、高血圧等の生活習慣病のリスクが高まるため、学校、施設、会社等においては、このような状況を解消するため積極的な運動の機会を設けています。しかし、障がいがあるゆえに抱えてしまう運動に対する嫌悪感、不安感、無関心等によって運動習慣の定着は難しいと感じていました。

障がい者も健常者と同じように、運動によって健康づくりができないか模索していたところ、障がいのある子どもがいる家族のサークルより「運動指導をしてほしい」と依頼がありました。その指導経験から「子どもの頃からの運動に親しむ習慣づくりが、生涯を通じた健康的な生活習慣の土台になるのではないか」と考えました。

ただ、その頃は、周囲の障がい者スポーツに対する理解は薄かったため、当然、障がいのある子どもたちが日常的に運動できる場はほとんどありません。「なければ作ろう!」ということで、障がいのある子どもたちの生活体力向上を目的に教室を開設しました。“運動やスポーツ”を“楽に楽しく”そして“わかりやすく”という思いから「スポらく」と名付け、障がいのある子どもたちと、その家族の協力を得ながら始めました。

### 【活動の現状】

#### 他協会とも連携 知的障がいの小・中学生が対象

この教室は知的障がいがある小・中学生を対象としており、頭や体を使ったレクリエーション運動や音楽を使ったリズム運動が主なプログラムで、さらに、島根県レクリエーション協会や島根県障害者スポーツ協会と連携し、その幅を広げています。特に、島根県障害者スポーツ協会へ指導者派遣を依頼することで様々なパラスポーツも体験でき、教室の子どもたちが自分の得意なものや好きなものを見つけ、教室卒業後に新たな活躍の場へ進んでいくことも期待しています。

また、文化施設やスポーツ施設の指定管理を行っていることから、指定管理施設内の芝生グラウンドでボール遊びをするなど、年間計画や教室中の安全管理が行いやすいというメリットがあります。加えて、近くにある空港でウォーキングイベントを主催し、「スポらく教室」の子どもたちも一般参加者と一緒に飛行機を見るなど、地域の環境を生かした取り組みも行っています。



島根県障害者スポーツ協会指導のもとボッチャを体験する様子  
他にもフライングディスクやラダーゲッターを体験



スポらく教室のレクリエーション運動で棒取りをする様子  
体育館を貸し切って走り回っています

## 【気をつけていること】

### 個性を生かし、「好き」を引き出す

障がい者スポーツを行う際には、ケガのリスクに配慮し安全面に気をつけることはもちろん、個性を生かし、安心して活動に取り組めるよう心掛けています。ボールが好き、音楽が好き、慣れた環境が好き、このスタッフが好きなど、個性は人それぞれですが、好きではない活動や新しい環境などの変化がきっかけで混乱を起こす子どももいました。それぞれの好き嫌いは体験してみないと分かりません。いかに「好き」を一つでも多く引き出し、興味・関心につなげるかが事業のポイントだと感じます。

## 【ペガーボールとの出会い】

### 運営費確保できず教室存続の危機→ニュースポーツに重点

事業を継続していく上で運営費の確保が毎年の課題となっています。施設使用料は減免対象ですが、参加者の会費だけで教室運営を検討すると、指導者の確保、道具や環境の充実を図ることが難しく、個人負担が大きくなってしまったため、島根県障害者スポーツ協会活動支援金を受け何とか活動が継続して成り立っている状況です。しかし、活動支援金も交付金額が毎年異なるため安定した収入は見込めず、ここ数年のコロナ禍の影響により参加者が減少し、教室存続も危うくなりました。

そこで今では、令和元年12月から取り組んでいる「ペガーボール」というニュースポーツに重きを置き活動を続けています。「ペガー」とは「くつつく」という意味があります。基本は鬼ごっこですが、鬼はマジックテープが前後に付いたポンチョを着ており、逃げる鬼に目掛けてボールを投げるとい、ボール投げと鬼ごっこが合体したシンプルなスポーツです。平成26年度福岡県障害者スポーツ活性化事業で考案されたスポーツで、今では「特別支援学級人気No1」という声もあり、全国で100以上の特別支援学級に普及しています。

## 中度・重度の子どもと一緒に楽しめる「ペガーボール」

元々、「スポらく教室」には知的障がい軽度の子どもたちが多く参加しており、比較的運動制限のない子どもが多かったのですが、参加者増加に伴い中度・重度など様々な症状の子どもたちが一緒に取り組める活動を検討する必要性がありました。そこで見つけたのが「ペガーボール」です。

当初知名度が低かった「ペガーボール」を役員等に提案しても、理解を得ることも難しい上にクラブには新しく備品を購入する余裕も無く、「かなわぬ夢」となりそうでした。「お金が無いなら捻出すればいい」「無名なら説明して知ってもらえばいい」と、不屈の精神で資金調達と周知のためにチャリティーイベントを開催し、寄付金を得て何とか購入することができました。

## 子ども・家族から大好評 地元メディアでも紹介

早速「スポらく教室」でも取り組んだところ、子どもたちや保護者もみんな口をそろえて「楽しいー！」と大好評でした。また、障がいがある子どもたちだけでなく指導者も家族も一緒になって楽しめる点が最大の利点でした。それぞれの障がいに合わせた運動レベルで取り組むことができ、シンプルなルールなので自由自在にアレンジして取り組むことができます。

その後、養護学校をはじめ地元の幼保園や親子活動など多くの団体へ「ペガーボール」の貸出を行っています。また、メディアからの取材依頼もあり「障がい者と健常者が一緒に楽しめるペガーボール」として、地元のテレビや新聞などで多く取り上げられました。



スポらく教室でペガーボールに取り組む様子  
あっという間の20秒で大笑いしました



ペガーボール  
マジックテープのポンチョとボール40個  
1セットで6万円

### 3

## コロナ禍で制約ある中、好評教室を今後も継続

障がいのある子どもたちは新型コロナウイルスに感染した際のリスクが大きいという見解もあることから、「スポらく教室」の定期開催、参加が難しいという点が最大の課題です。現在は、コロナ禍によって子どもを対象とした定期教室の開催が難しいという判断から、「スポらく教室」は単発開催とし、気軽に状況に合わせて参加できる環境を整えていく予定です。

### 嬉しい声を励みに、幅広い障がい者が楽しめる環境づくりを

一方、「中学校を卒業してもスポらく教室に取り組みたい」「教室のおかげで運動量が増えた」「学校でも運動の機会が少ないので嬉しい」「この教室に来ると子どもが生き生きしている」など嬉しい声も多く、継続の必要性を感じるとともに、障がいの種類や年齢を限定した教室ではなく、様々な障がいを持った方々が生涯にわたり取り組めるスポーツの環境づくりに取り組んでいかなければいけないと強く感じています。

令和12年には第84回国民スポーツ大会、第29回全国障害者スポーツ大会が島根県で開催されます。本クラブでは、障がい者スポーツ人口の増加はもちろん、健常者・障がい者問わず一緒に楽しくスポーツに取り組める環境づくりの柱になれるよう活動を続けていきたいと思っております。

(NPO法人斐川体育協会ひかわスポーツ夢クラブ クラブマネージャー 若槻 かおり)

## クラブ プロフィール

**設立年月日** 平成22年3月21日

**所在地** 島根県出雲市斐川町上直江2469

**運営** 会員数321名(令和4年3月現在)、予算規模550万円(令和3年度)

**特徴** 中高年を対象とした健康づくり教室を中心として、キッズプログラムや大人の部活動、イベント事業など、地域や世代の枠を超えて一緒に参加できる事業を行っています。

**連絡先** 〒699-0624 島根県出雲市斐川町上直江2469 アクティーひかわ内

TEL 0853-72-7411 FAX 0853-72-7411

URL <https://hikawa-yume-club.jimdofree.com>

E-Mail [ym-club@icv.ne.jp](mailto:ym-club@icv.ne.jp)

